慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	拠点運用委員会の紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	Newsletter Vol.1, (2007. 9) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000001-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

拠点運用委員会の紹介

国際教育研究プログラム

グローバル COE プログラムは、国際協力のまたとない機会を提供しています。このような機会を得て、既存の協力関係はさらに広がりを見せ、深められ、また新たなパートナーシップも築き上げられていくことでしょう。我々の GCOE プログラムは、さまざまな角度からの研究アプローチへ開かれていますが、それはメンバーが、個々の研究関心に従って研究を進めるプロジェクトにとって、最適な環境といえるでしょう。真に実りある活動にとって、最も信頼できる基盤となるのは、いつでも個人対個人の関係です。我々の活動が、そのような関係の元に、国際的に展開していくことを目指していきます。（Wolfgang Ertl）

研究施設

研究施設委員会は教育研究のための設備を整えるための委員会です。さしあたっての委員会の仕事は2つあります。ひとつは東宝ビルのレイアウトの変更です。基本設計は8Fを共用の実験施設とし、6つの実験ブース（内4つは防音実験室）とひとつのやや広い実験スペース（被験者待機室としても利用できます）を設置します。設備としては EEG、NIRS、TMS、アイマークレコーダがあります。7F は研究員のディスクスペース（合計 21）と事務スペースです。

この委員会のもうひとつの大きな仕事は磁気共鳴画像装置（ジーメンス社トリオ）の導入で、これはそのための仮設実験室を綱町に建築します。実際に稼働できるのは年明けになるのではないかと思いますが、可能なかぎり急ぎます。MRI は本拠点の教育研究の中心設備ですので、多くの方にご利用いただきたいと思います。そのための訓練プログラムも充実させるつもりです。また、医学部生理学教室、理化学研究所の協力を得て、医学部リサーチパーク内にマーモセットの実験設備も作る予定です。

（渡辺 茂）

研究発信支援プログラム

グローバル COE では、教育・研究の成果を世界に向け発信することが求められている。このプログラムでは、特に若手の研究者、大学院生に焦点を当てて、英文雑誌論文の執筆や国際学会での発表を支援する。前者に関しては、学術論文の書き方一般についての講演を企画し、執筆、英文校閲、投稿、修正要求への対応など、掲載受理までを、具体例をもとに実習する予定である。後者に関しては、少なくともこのプログラムの支援を受ける発表については、予行演習的な討議の場を設けたいと考えている。経費的には、英文校閲、論文掲載にかかる費用、国際学会の参加費用を援助・補助する予定である。（小嶋祥三）

倫理委員会

被験者の協力を得て遂行される研究においては、まずもって協力者への倫理的配慮が求められるが、この配慮は通常二つの段階で行われる。第一は研究のプロトコルの作成と実施に際して研究者自身が行う自己検証、第二はこのプロトコルについて第三者が行う審査である。本委員会が担当するのはこの第一の側面であり、その最初の課題は、プロトコルの作成に先立ってセミナーを開催し、本研究を遂行する研究者が倫理的要件への理解を深めるのを支援することにある。なお、倫理的配慮の第二の側面は、既存の文学部研究倫理委員会に委ねられる。（樽井正義）

広報委員会

広報委員会は、公開シンポジウム、講演会、進行中の研究などのホットな情報を提供すること、また研究成果を内外に向けて発信することを目的に活動します。ニュースレターを年 4 回発行し、各号で研究の最先端のトピックスを取り上げていきます。年度末には、1 年間の研究成果をまとめた研究成果報告書を発行します。また、事業推進者の先生方の協力のもと、各研究テーマに関する英文の本の発行を促進し、研究成果を多方面にアピールしていきたいと考えています。（山本淳一）

提携拠点からのメッセージ

ルドヴィッヒ・ヒューバー教授
ウイーン大学神経生物学・認知研究学部

このたび、グローバル COE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」が採択され、開始されることを聞き、たいへんうれしく思います。これは、渡辺茂教授の先導と創造性に多くよっていることは間違いありません。私は、この数年間行ってきた、アイデア、学生、議論の交換を通じた、様々な異なったレベルでの実り多きコラボレーションのことを思い出すことができます。このコラボレーションの最も新しい、目に見える成果は、（Springer 社から出版されている）「動物認知（Animal Cognition）」誌での「動物の論理：ヒトの言語なしでの判断」というタイトルの特集号です。ヒトの心が、ヒト以外の動物の心と同じく、どのように働いているかに関する研究の到達点で、発見の数々を論述した論文集です。現在動物で研究されている現象に、概念化できる明確な哲学的基盤があるということは、（ヒト）の論理と言語の科学と関係づけることができるということです。推移的推論、因果律、心の読み取り、概念形成などは、伝統的に、心の論理と哲学の中で位置づけられている認知過程の概念です。このように、今回のグローバル COE では、これまで別々に希求されてきた心の理解を統合するステップであり、その意味で、傑出した並ぶもののない先導であります。

ハンス・ビショフ教授
ビーレフェルト大学（ドイツ）エソロジー学部

合理性と感情とは、人の心の中の２つの重要な次元であることは疑いありません。現代人の社会では、心の健康を損なうことが益々多くなっています。これは、これらの次元のバランスが失われ、それらを的確に用いる力が消えつつあるからです。それゆえ、人の心のこれら２つの側面の起源と相互関係を研究し、適切な使用や誤った使用がもたらす影響を究明するのは、今しかないのです。今、始まろうとしている“論理と感性の先端的教育研究拠点”は、これらの問題を、広い学際的なアプローチによって、深く探求していこうとするものです。それは、進化生物学から、認知機能の行動・神経生物学的探求を経て、哲学や文化人類学へと向かいます。このプロジェクトが学際的であるというのは、慶應義塾大学の異分野間のコラボレーションにとどまらず、日本国内、アメリカ、ヨーロッパの科学者たちも参加する国内および国際的な研究基盤をつくるからです。私は、渡辺教授をはじめとする研究者がこの素晴らしいプロジェクトを創造したことを祝福いたします。そして、ぞくぞくするような科学的成果を生み出し、若い科学者たちへの献身的な教育によって、日本だけでなく、人間社会の未来に向けて長きにわたって影響をもたらしてくれるものと確信しています。私も、この冒険の一員であり、その成功に貢献するよう力を尽くすつもりです。